

令和3年度

全国学力・学習状況調査の結果



霧島市教育委員会

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果

1 実施期日 令和3年5月27日（木）

2 実施概要

- (1) 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年
 (2) 対象教科 小6は国語・算数、中3は国語・数学
 (3) 調査事項 ア 教科に関する調査

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっておくことが望ましい知識・技能
 ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
 上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施

3 結果概要（平均正答率は、平成30年度から県と市は整数値、全国のみ小数点以下も公表）

(1) 小学校平均正答率

・ 国語は全国をやや上回っている。学習内容「書くこと」で大きく全国を上回っている。算数も全国をやや上回っている。学習内容5領域では、「変化と関係」が全国を下回り、他領域は上回っている。

教科	平成30年度 (上段は平均正答率、下段は平均正答数)			令和元年度 (上段は平均正答率、下段は平均正答数)			令和3年度 (上段は平均正答率、下段は平均正答数)			
	本市	県	全国	本市	県	全国	本市	県	全国	
国語	A	70 8.5/12	70 8.4/12	70.7 8.5/12	63 8.8/14	66 9.2/14	63.8 8.9/14	66 9.2/14	67 9.4/14	64.7 9.1/14
	B	52 4.1/8	53 4.2/8	54.7 4.4/8						
算数	A	65 9.1/14	64 9.0/14	63.5 8.9/14	63 8.9/14	65 9.2/14	66.6 9.3/14	71 11.3/16	71 11.4/16	70.2 11.2/16
	B	49 4.9/10	49 4.9/10	51.5 5.1/10						
理科	60 9.5/16	59 9.5/16	60.3 9.6/16							

(2) 中学校平均正答率

・ 令和元年度は、全国・県と比べて本市は国語、数学ともに大きく下回っていたが、今年度は、県と同値となり、全国との差をかなり縮めている。

教科	平成30年度 (上段は平均正答率、下段は平均正答数)			令和元年度 (上段は平均正答率、下段は平均正答数)			令和3年度 (上段は平均正答率、下段は平均正答数)			
	本市	県	全国	本市	県	全国	本市	県	全国	
国語	A	77 24.5/32	75 24.0/32	76.1 24.3/32	69 6.9/10	70 7.0/10	72.8 7.3/10	64 9.0/14	64 9.0/14	64.6 9.0/14
	B	59 5.3/9	58 5.3/9	61.2 5.5/9						
数学	A	66 23.9/36	64 23.2/36	66.1 23.8/36	55 8.9/16	57 9.1/16	59.8 9.6/16	56 9.0/16	56 9.0/16	57.2 9.1/16
	B	47 6.5/14	45 6.3/14	46.9 6.6/14						
理科	66 17.8/27	65 17.5/27	66.1 17.9/27							
英語				53 11.1/21	53 11.2/21	56.0 11.8/21				
英語 話すこと				24.8 1.2/5	— 1.5/5	30.8 1.5/5				

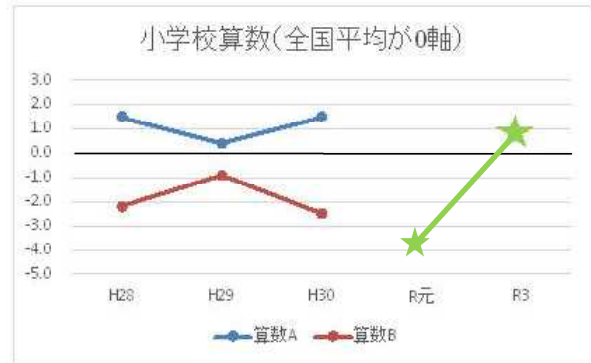
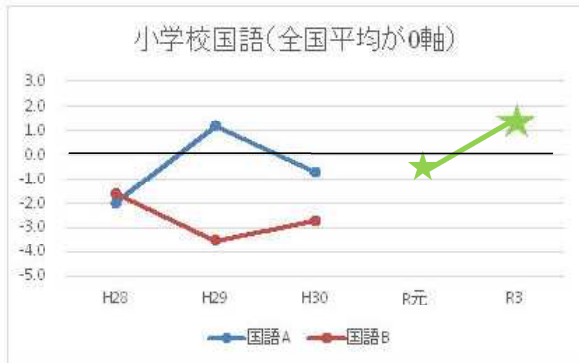
4 平成28年度からの経年変化（全国平均正答率との差）

【小学校】

	H28	H29	H30	R元	R3
国語A	-2.0	1.2	-0.7	-0.8	+1.3
国語B	-1.6	-3.5	-2.7		
算数A	1.5	0.4	1.5	-3.6	+0.8
算数B	-2.2	-0.9	-2.5		

【考察】

- ・ 小学校は、国語、算数ともに全国を上回った。改善が図られている。

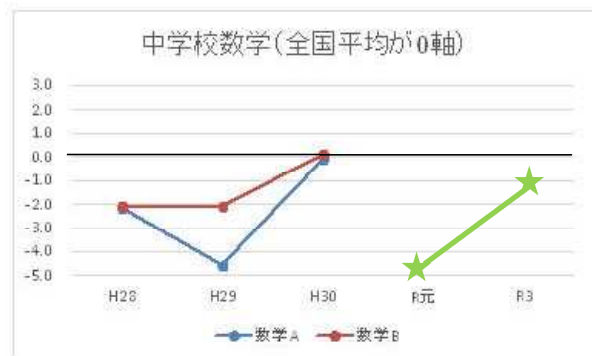
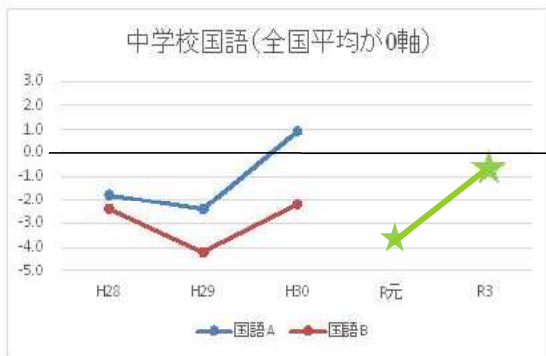


【中学校】

	H28	H29	H30	R元	R3
国語A	-1.8	-2.4	0.9	-3.8	-0.6
国語B	-2.4	-4.2	-2.2		
数学A	-2.2	-4.6	-0.1	-4.8	-1.2
数学B	-2.1	-2.1	0.1		

【考察】

- ・ 中学校は、国語、数学ともに全国を下回ったが、全国との差を縮め、改善傾向にある。



5 同学年における経年変化（H30：小6 → R3：中3）

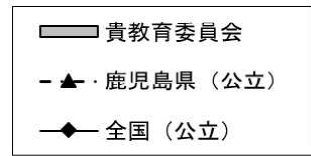
【全国平均正答率との比較】

	小6時	中3時
国語A	-0.7	-0.6
国語B	-2.7	
算数・数学A	1.5	-1.2
算数・数学B	-2.5	

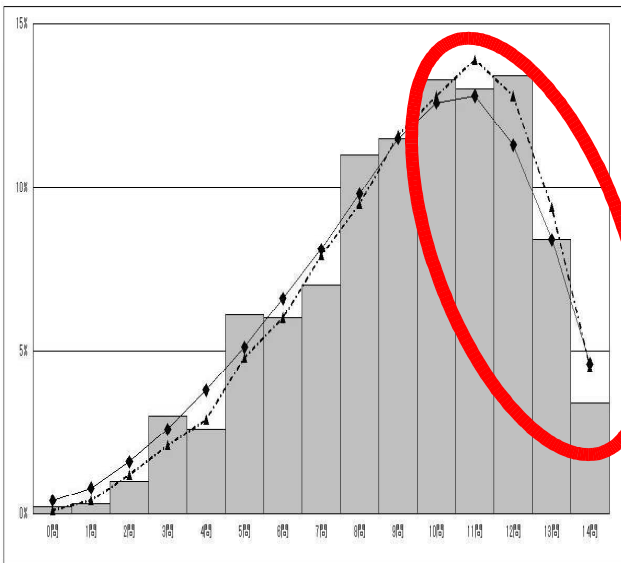
【考察】

- ・ 国語は、全国との差を縮めており、緩やかではあるが改善傾向にある。算数・数学は全国との差を縮めるまでには至っていない。

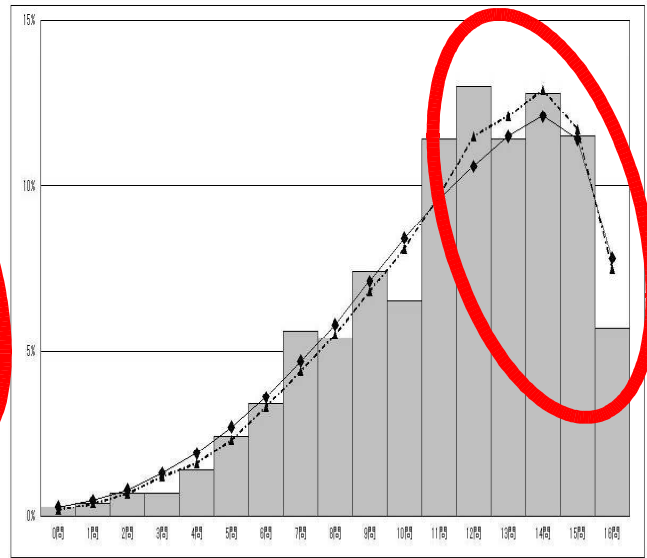
6 正答数分布グラフから（横軸：正答数、縦軸：割合）



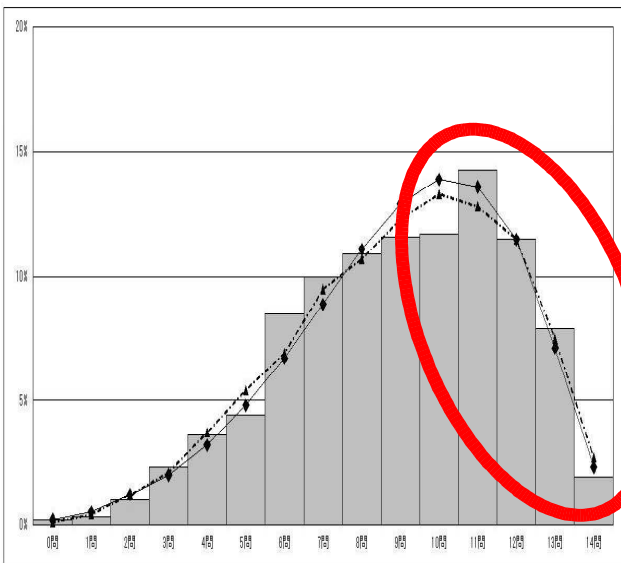
【小学校国語】



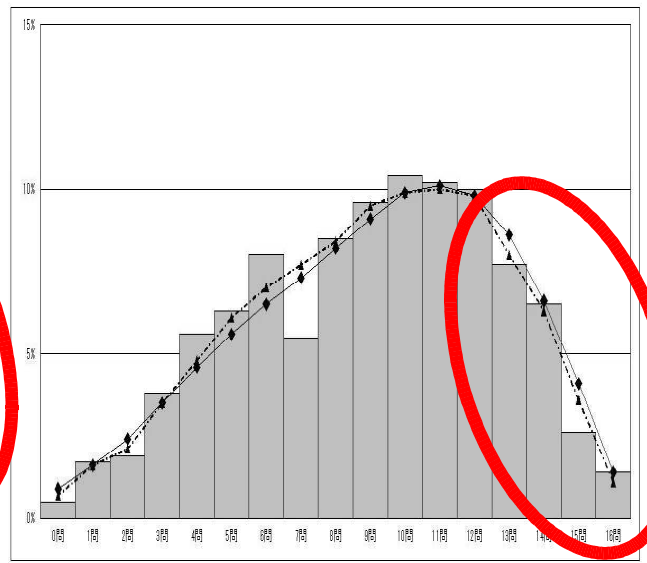
【小学校算数】



【中学校国語】



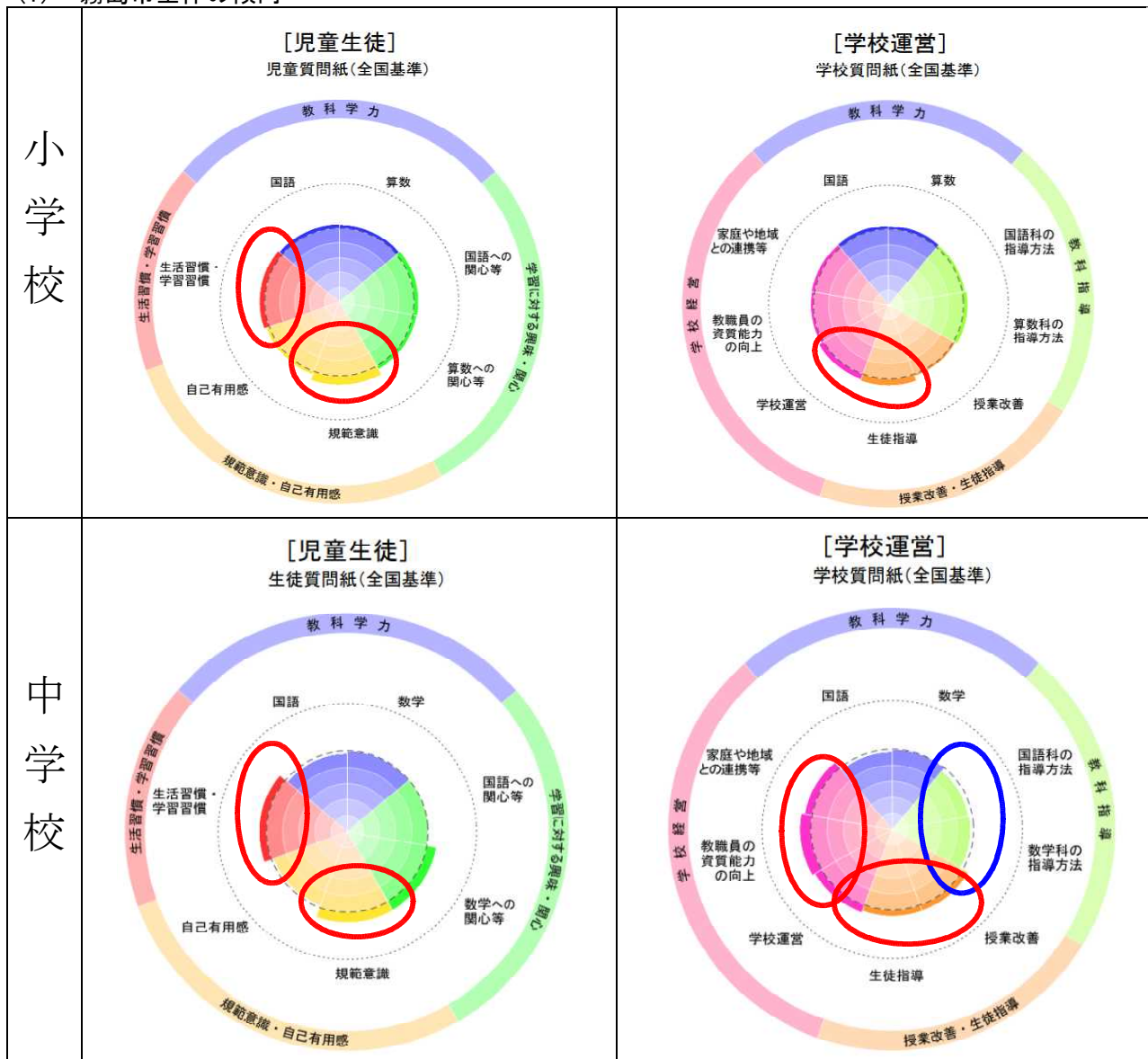
【中学校数学】



【考察】

- ・ 一昨年度の結果で、本市は全国と比べて上位層が少ないという課題があった。今年度の結果から、小学校2教科と中学校国語において全問正解者の割合が少ないという課題は残るが、赤の囲みで示した上位層の割合は増えている。
- ・ 令和2年度から本市学力向上の取組の重点目標として「アンダーアチーバー0（ゼロ）と学力上位層の伸長」を掲げ、定着の見届けと職員集団づくりに取り組んでいる成果が現れている。今後も確実な定着を目指す授業と定着の見届け、補充指導、授業改善のサイクルにより学習に主体的に取り組む児童生徒の育成する。

7 学習状況調査結果
 (1) 霧島市全体の傾向



ア 児童生徒質問紙から

- ・ 小・中学校ともに、生活習慣・学習習慣（朝食を毎日食べる。毎日同じくらいの時刻に寝ている、起きている。自分で計画を立てて勉強している。）と規範意識が全国を上回っている。
- ・ 小学校は全ての領域で全国と比べて高い。国語、算数の調査結果も全国を上回っている。
- ・ 中学校は数学への関心等は高いが数学の調査結果は全国の平均を下回る。

イ 学校質問紙から

- ・ 小・中学校ともに、学校経営、授業改善・生徒指導が全国と比べて高い。
 学校経営・・・学校として授業改善。教科横断的な教育。PDCAサイクル。言語活動。全国調査の分析、指導計画への反映。
 授業改善・・・自分で考え自分から取り組む。習得・活用及び探究。身に付けたことを解決に生かす場を設定。
 生徒指導・・・授業中の私語。将来就きたい仕事、夢。学級全員で挑戦。学習規律。褒める。
- ・ 小学校は、全領域で全国と同等か上回っている。
- ・ 中学校は、教職員の資質能力の向上が目立ち、校内研修に関する設問がおしなべて高い。

【考察】

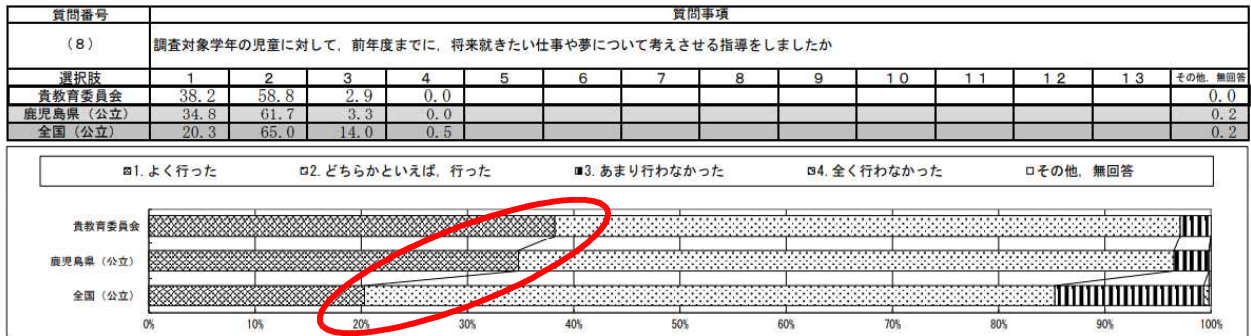
校内研修が、研修係を中心に計画的・継続的に、実践を通して行っている学校が多い。児童生徒へは、補充、発展指導の取組が大切にされていることが窺える。算数・数学の学習で、具体物の操作、観察、実験などを通して数量や図形などの性質を見いだす活動が低い。児童生徒が課題を設定し、解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの 主体的・対話的な学習活動について研修を深める必要がある。

8 学習状況調査の主な結果

学校校質問紙

(1) 「将来就きたい仕事や夢」

小学校

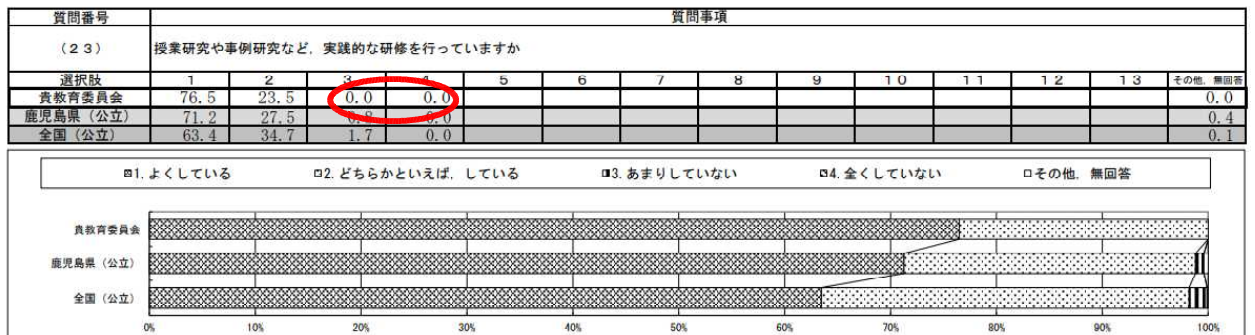


中学校

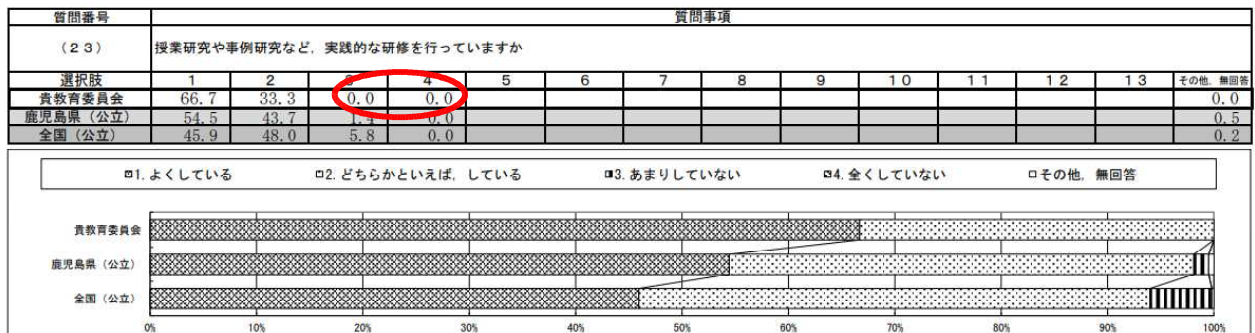


(2) 「学校職員の校内研修」

小学校



中学校



(3) 「補充指導」

小学校



中学校



無答率の比較

	小国	小算	中国	中数
本市	2.7	1.7	4.1	9.9
県	2.1	1.5	4.1	10.5
全国	4.3	2.6	4.4	11.2

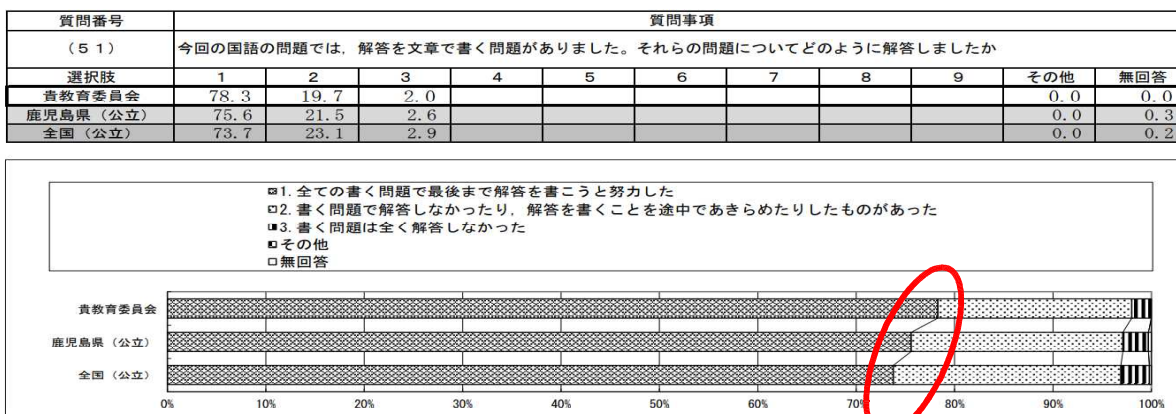
児童生徒質問紙

(4) 「諦めずに粘り強く問題にあたること」

小学校



中学校



【考察】

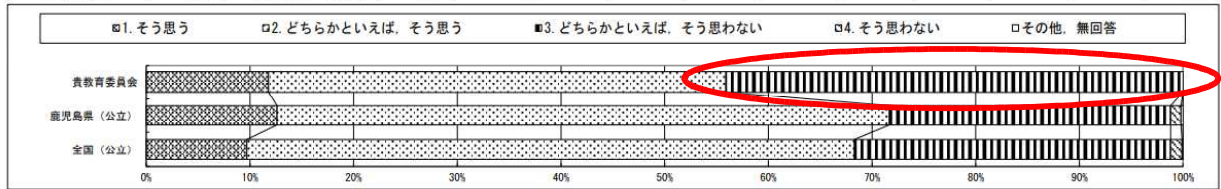
夢や希望と今の取組は結び付いていることを子供たちに認識させるとともに、自己実現に向かう学びが連続されていくよう、キャリア教育の視点をもった指導の充実にますます努める必要がある。

9 学校質問紙と児童生徒質問紙の相関

(1) 「自分の考えを工夫して伝える」

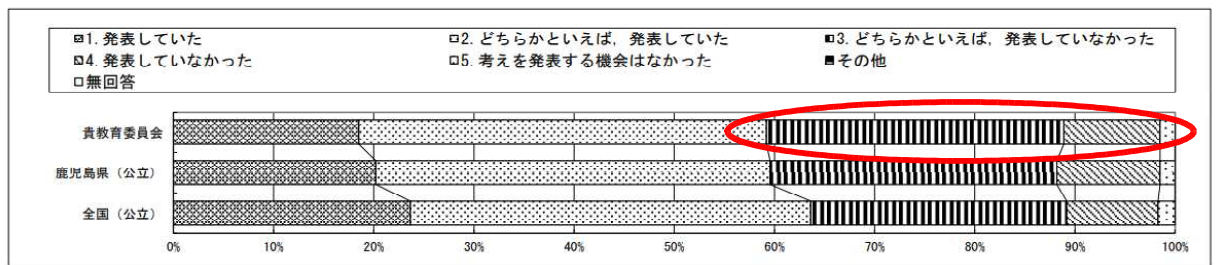
小学校 学校質問紙

質問番号	質問事項													
(30)	調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか													
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	その他、無回答
貴教育委員会	11.8	44.1	44.1	0.0										0.0
鹿児島県(公立)	12.6	59.0	27.1	1.0										0.2
全国(公立)	9.7	58.6	30.5	1.1										0.1



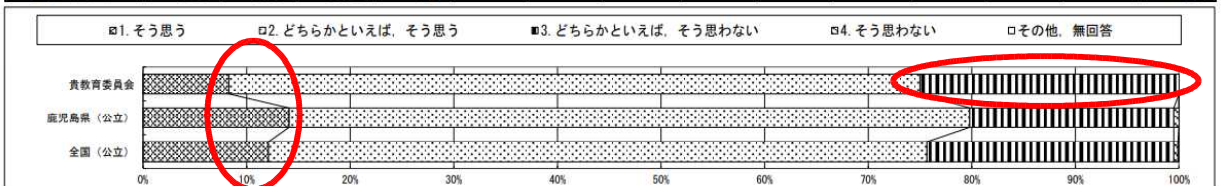
児童質問紙

質問番号	質問事項									
(32)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
貴教育委員会	18.5	40.7	29.7	9.6	1.5					0.0
鹿児島県(公立)	20.2	39.3	28.6	10.3	1.5					0.0
全国(公立)	23.6	39.9	25.5	9.1	1.7					0.0



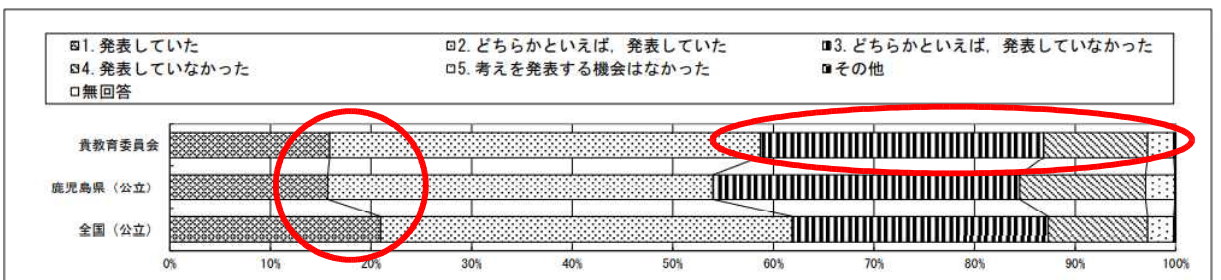
中学校 学校質問紙

質問番号	質問事項													
(30)	調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか													
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	その他、無回答
貴教育委員会	8.3	66.7	25.0	0.0										0.0
鹿児島県(公立)	14.1	65.7	19.7	0.5										0.0
全国(公立)	12.1	63.5	23.8	0.4										0.1



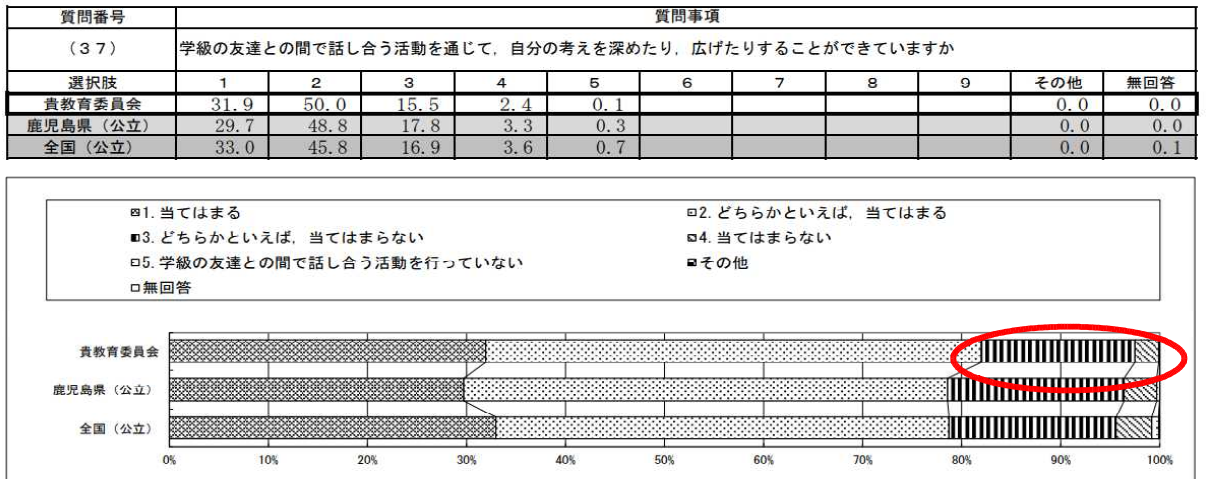
生徒質問紙

質問番号	質問事項									
(32)	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
貴教育委員会	15.9	42.8	28.2	10.3	2.6					0.1
鹿児島県(公立)	15.7	38.3	30.5	12.5	2.9					0.1
全国(公立)	21.0	41.0	25.5	9.9	2.6					0.1

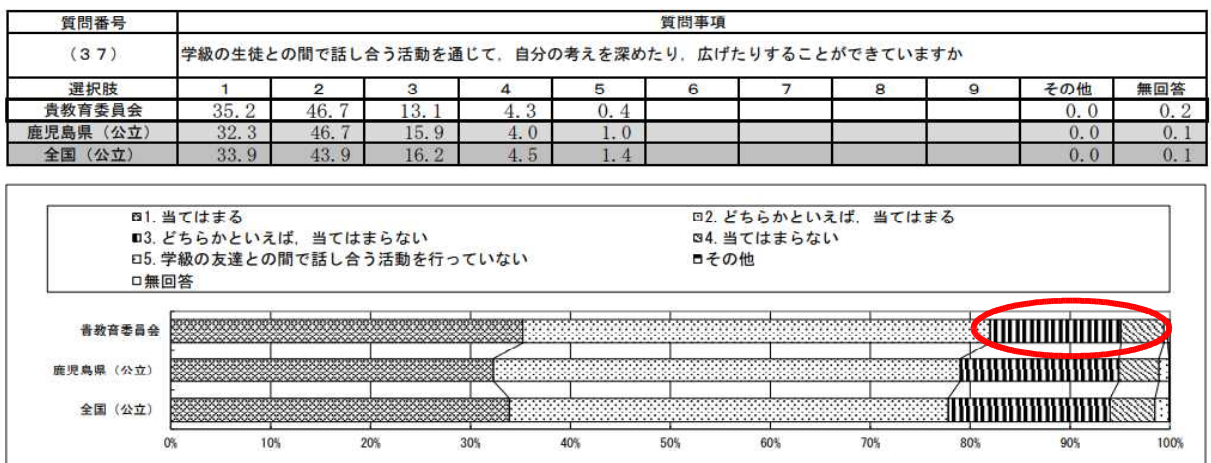


(2) 「話し合いで考えを深め、広げる」

小学校



中学校



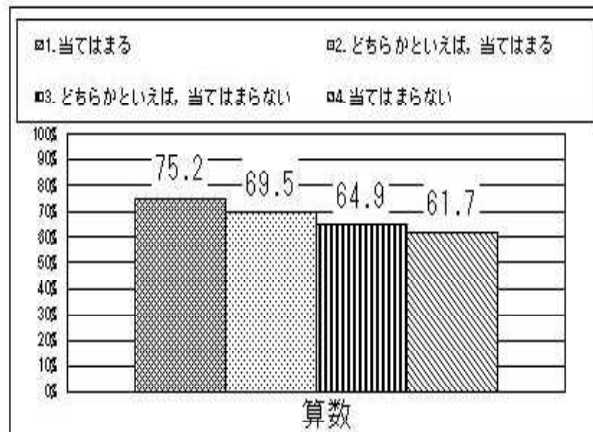
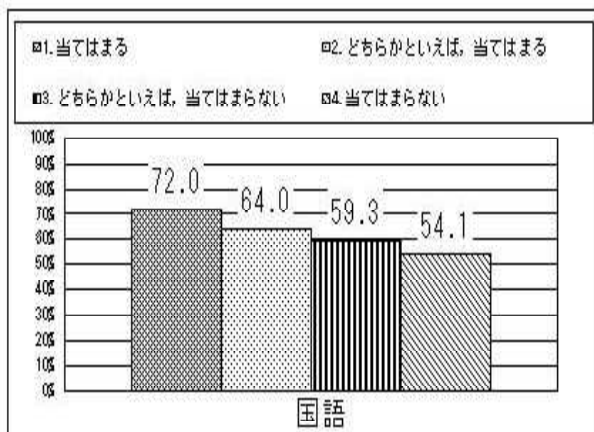
【考察】

児童生徒質問紙、学校質問紙ともに消極的な回答が多い。相手に伝えるための工夫を学んだり、互いに考えを深める、広げる実感味わったりする活動を取り入れた、互いの考えを伝え合う活動や、視点をもった話し合い活動を充実する必要がある。

10 クロス集計（教科に関する調査と児童生徒質問紙との相関）結果

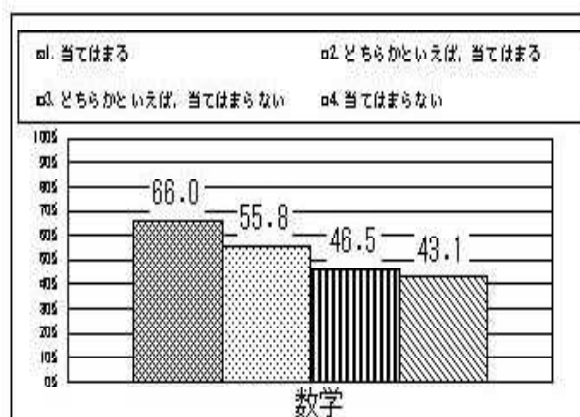
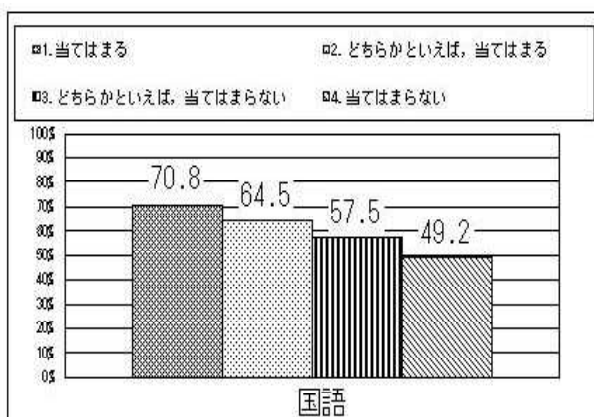
ア 小学校

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	児童の割合 (%)	平均正答率 (%)	
		国語	算数
① 当てはまる。	34.6	72.0	75.2
② どちらかといえば、当てはまる。	46.8	64.0	69.5
③ どちらかといえば、当てはまらない。	15.9	59.3	64.9
④ 当てはまらない。	2.7	54.1	61.7



イ 中学校

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	生徒の割合 (%)	平均正答率 (%)	
		国語	数学
① 当てはまる。	25.2	70.8	66.0
② どちらかといえば、当てはまる。	52.3	64.5	55.8
③ どちらかといえば、当てはまらない。	19.3	57.5	46.5
④ 当てはまらない。	2.8	49.2	43.1

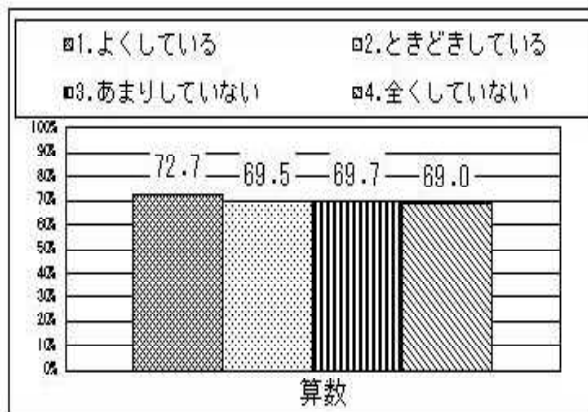
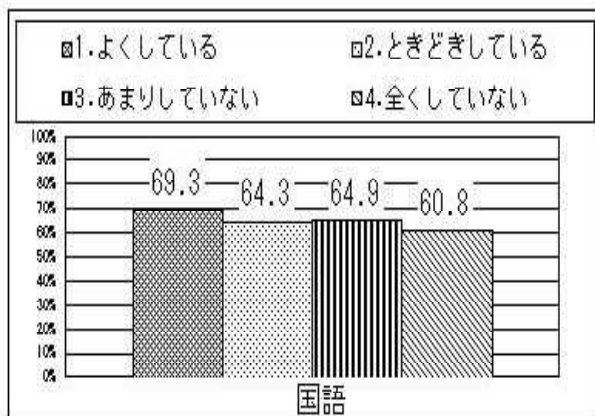


【考察】

小・中学校ともに相関が大きく見られる。学習を振り返り、児童生徒自身が学んだことを整理する活動が効果的であると考えられる。時間内にまとめ、振り返りまで収める授業を行うことの大切さを指導していく必要がある。

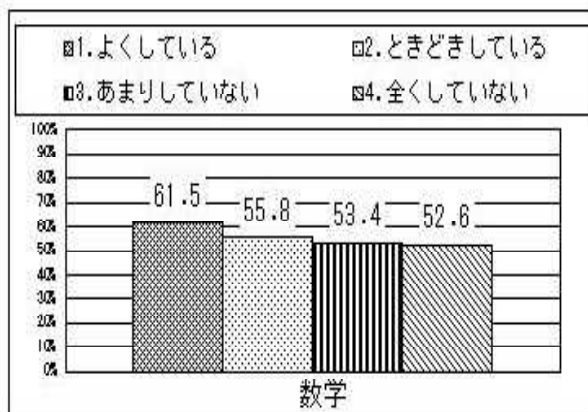
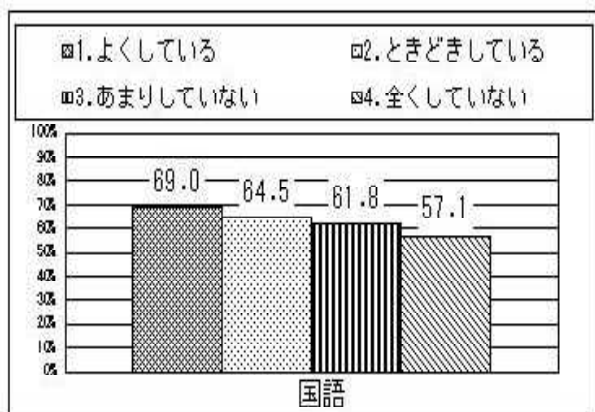
ア 小学校

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか (学校の授業の予習や復習を含む)	児童の割合 (%)	平均正答率 (%)	
		国語	算数
① よくしている。	31.0	69.3	72.7
② とどきしている。	43.6	64.3	69.5
③ あまりしていない。	20.2	64.9	69.7
④ 全くしていない。	5.3	60.8	69.0



イ 中学校

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか (学校の授業の予習や復習を含む)	児童の割合 (%)	平均正答率 (%)	
		国語	数学
① よくしている。	20.6	69.0	61.5
② とどきしている。	47.8	64.5	55.8
③ あまりしていない。	25.3	61.8	53.4
④ 全くしていない。	6.3	57.1	52.6



【考察】

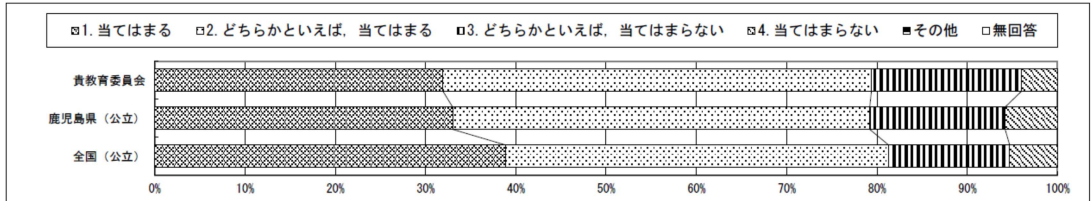
特に中学校で相関が大きい。「よくしている」と答えている生徒の割合は全国平均並ではあるが20.6%と少ない。授業連動型家庭学習を生かすなどして、全体的に引き上げることが必要と考える。

11 自己肯定感に関する調査結果と分析

(1) 小学校

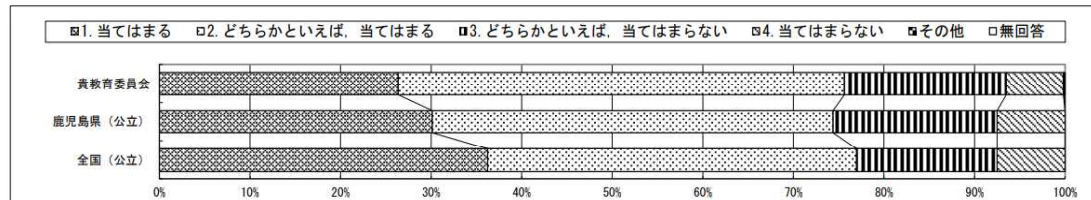
元年度

質問番号	質問事項										
(5)	自分には、よいところがあると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	31.9	47.4	16.6	4.0						0.0	0.0
鹿児島県（公立）	33.0	46.2	15.0	5.8						0.0	0.0
全国（公立）	38.8	42.4	13.4	5.3						0.0	0.0



3年度

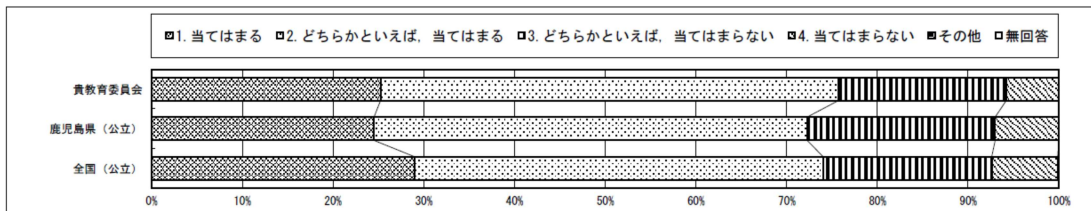
質問番号	質問事項										
(6)	自分には、よいところがあると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	26.4	49.3	17.9	6.3						0.1	0.1
鹿児島県（公立）	30.1	44.2	18.1	7.5						0.0	0.0
全国（公立）	36.2	40.7	15.5	7.5						0.0	0.0



(2) 中学校

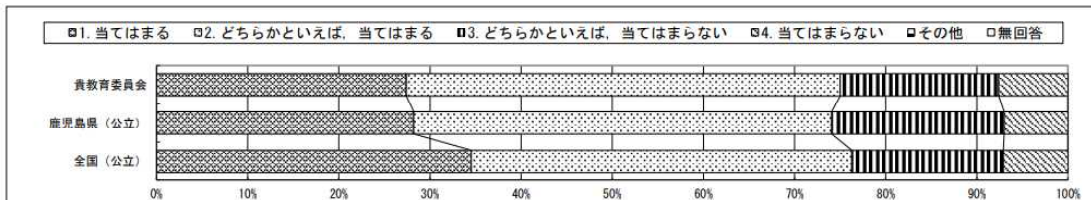
元年度

質問番号	質問事項											
(5)	自分には、よいところがあると思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	25.2	50.4	18.5	5.8							0.0	0.0
鹿児島県（公立）	24.5	47.7	20.7	7.0							0.0	0.0
全国（公立）	29.0	45.1	18.6	7.3							0.0	0.1



3年度

質問番号	質問事項										
(6)	自分には、よいところがあると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	27.4	47.6	17.4	7.6						0.0	0.0
鹿児島県（公立）	28.2	45.8	18.9	7.0						0.0	0.0
全国（公立）	34.5	41.7	16.6	7.1						0.0	0.0



【考察】

本市の小・中学生の自己肯定感は、全国平均と比較して低い。「当てはまる」を選択している児童生徒に着目すると、小学生は、元年度から減っている。中学生は元年度から増加しているものの、全国、県平均より低い。分かる、できるを実感できる授業や、子供同士、教師とのかかわりの中で互いに認め合える場や機会を増やし、自己肯定感を高める必要がある。

12 今後の学力向上に向けた対策について

(1) 「学力向上プラン」を基盤とした、【授業改善】と【定着の見届け】の推進

各学校が、自校の実態に応じて以下の2つの視点で学力向上プランを作成している。年間を通じて行うPDCAサイクルとして、引き続き日々の実践として推進する。

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりと定着の見届け
- 「主体的・対話的で深く学ぶ」職員集団づくり

併せて、各種学力調査の分析を行い、授業改善や補充指導等に取り組んでいる。全国学力・学習状況調査の分析・結果を、全学年の指導に生かす取組を全学校で推進する。

ア 各校の実態から

全職員で分析を行い課題を明らかにし共有し、実態に応じた必要な改善を図る。

- ・ 学校全体として見られる課題 (全校で統一した改善策の検討)
- ・ 学級として見られる課題 (学級の改善策の検討)
- ・ 教科として見られる課題 (系統を考慮した全学年の改善策の検討)
- ・ 個別の対応 (各学級担任・教科担任の対応)

イ 市全体の傾向から書く活動

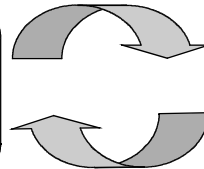
書く力を身に付ける学習を日常化する。

- (ア) 自分の考えが伝わるように書く
 - ・ 主張、根拠を意識させる。
 - ・ 友達の考えを受け修正、書き加えさせる。
- (イ) 重要語句についての説明を書く
 - 文章で説明させ、知識の概念的な理解を深めさせる。
- (ウ) 本時のまとめを字数と時間を制限して書く
 - ・ ロイロノートで共有し、互いのよさを学ばせる (教師にとっては児童生徒の理解度把握、次時に向けて指導準備の材料となる)。
 - ・ 教師の押さえ、価値付けまで行う。
→まとめを自分の言葉で書くことが習慣化されることで、授業のポイントをとらえる見方を育てることにもつながる。子供の学習に対する見方が変わる。

(2) 年間を通じた授業改善と定着の見届けの継続

以下のサイクルによって学力を身に付ける取組を全学校で推進する。

ア 単元全体を見通して、子供が考える場面と教師が教える場面を明確にした計画を作成し、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成する授業実践



イ 定着の見届け



補充指導、指導法改善

ア 学び続ける子供を育てる魅力ある授業実践

夢や目標に向かって学ぶ意欲につなげる学習を展開する。

- ・ 一人一人が大切にされているか。
- ・ 一人一人がチャレンジできる環境となっているか。
- ・ 認められる場があるか。
- ・ 子供ができたを実感できているか。
- ・ 学ぶ雰囲気醸成されているか。
- ・ おいて行かれている子供はいないか。
- ・ 周囲とのかかわりをもっているか。
- ・ 意欲を引き出しているか。

イ 定着するまでの指導（演習問題の活用）

- 児童生徒が自分の力で解けるまで取り組ませる。

学力調査問題や県教委作成のWebシステム問題、本市の「今週の1問」に積極的に取り組ませる。